

令和5年度「数学A」シラバス

沖縄県立北部農林高等学校定時制課程

単位数: 2 対象年次: 4年次 教科書: 実教出版

1, 概要及び目標

(1)「場合の数と確率」「図形の性質」について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。

(2)義務教育段階の内容を適宜に取り入れ、学習内容の定着を図る。

2, 成績評価

(1)前期、後期に分けて評価する。

(2)定期試験(50点)

前期、後期とも中間試験・期末試験を実施する。

(3)提出物(30点)

定期試験後、ファイル提出を行う。

(4)授業態度(20点)

毎時間プリントの解答状況を点検する。

(5)その他(履修上の注意)

授業時数の3分の2以上の出席がなければ未履修となる。

3, 学習方法

(1)年度最初の授業で、「学習の内容」、「評価の方法」についてのガイダンスをおこなう。

(2)授業は年間指導計画に沿って行き、適宜課題や演習を実施し、学習内容の徹底を図る。

4, その他

(1)授業態度・提出物・出席状況の悪い生徒については厳重に対応する。

5, 授業計画

大単元	月	小単元(節)	時数	学習内容・目標	備考
第1章 場合の数と確率	4	1節 場合の数	6	・集合の意味と表し方を理解する。 ・集合の要素の個数を求めることができる ・和の法則や積の法則を利用して場合の数を求めることができる。	前期中間試験
	5	・集合と要素	7		
	6	・集合の要素の個数 ・和の法則と積の法則	8		
	7	・順列	5	・順列の問題において、順列の式を適切に用いることができる。 ・組合せの問題において、組合せの式を適切に用いることができる。	前期期末試験
	8	・組合せ	5		
	9	2節 確率 ・事象と確率 ・排反事象の確率	4 3	・確率の意味や基本的な法則について理解し、それらを用いて事象の確率を求める。 ・排反であることや排反事象の意味を理解し、確率を求めることができる。	後期中間試験
	10	・余事象の確率	3	・余事象の考え方を利用して、確率を求めることができる。 ・独立な試行の意味が理解でき、確率を求めることができる。	
	11	・独立な試行と確率	3		
		・反復試行の確率	4	・反復試行の確率を、適切な式で表し、その確率を求めることができる。	
		・条件付き確率	3	・条件付き確率の意味が理解でき、確率を求めることができる。	

第2章 整数		1節 整数の性質 ・倍数と約数 ・素数と素因数分解 ・最大公約数と最小公倍数	2 2 2	・倍数と約数の意味を理解し、求めることができる。 ・素数の意味を理解し、素因数分解の計算ができる。 ・最大公約数と最小公倍数の意味を理解し、	後期期末試験
	第3章 図形の性質	1 2 3	1節 三角形の性質 ・三角形と線分の比 ・三角形の外心・内心・重心 2節 円の性質 ・円周角 ・円と四角形 ・円と接線 3 ・方べきの定理	6 4 2 2 2 2	
※38週×2単位＝76時間					

令和5年度「数学A」シラバス

沖縄県立北部農林高等学校定時制課程
 単位数:2 対象年次:3~4年次 教科書:実教出版

1. 概要及び目標

- (1)「場合の数と確率」「図形の性質」について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。
- (2)義務教育段階の内容を適宜に取り入れ、学習内容の定着を図る。

2. 成績評価

- (1)前期、後期に分けて評価する。
- (2)定期試験(50点)
前期、後期とも中間試験・期末試験を実施する。
- (3)提出物(30点)
定期試験後、ファイル提出を行う。
- (4)授業態度(20点)
毎時間プリントの解答状況を点検する。
- (5)その他(履修上の注意)
授業時数の3分の2以上の出席がなければ未履修となる。

3. 学習方法

- (1)年度最初の授業で、「学習の内容」、「評価の方法」についてのガイダンスをおこなう。
- (2)授業は年間指導計画に沿って行い、適宜課題や演習を実施し、学習内容の徹底を図る。

4. その他

- (1)授業態度・提出物・出席状況の悪い生徒については厳重に対応する。

5. 授業計画

大単元	月	小単元(節)	時数	学習内容・目標	備考
第1章 場合の数と確率	4	1節 場合の数 ・集合と要素 ・集合の要素の個数 ・和の法則と積の法則	6	・集合の意味と表し方を理解する。 ・集合の要素の個数を求めることができる ・和の法則や積の法則を利用して場合の数を求めることができる。	前期中間試験
	5		7		
	6		8		
	7	・順列 ・組合せ	5	・順列の問題において、順列の式を適切に用いることができる。 ・組合せの問題において、組合せの式を適切に用いることができる。	前期期末試験
	8		5		
	9	2節 確率 ・事象と確率 ・排反事象の確率	4	・確率の意味や基本的な法則について理解し、それらを用いて事象の確率を求める。 ・排反であることや排反事象の意味を理解し、確率を求めることができる。	
	10		3		
	11	・余事象の確率	3	・余事象の考え方を利用して、確率を求めることができる。 ・独立な試行の意味が理解でき、確率を求めることができる。 ・反復試行の確率を、適切な式で表し、その確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味が理解でき、確率を求めることができる。	後期中間試験
		・独立な試行と確率	3		
		・反復試行の確率	4		
		・条件付き確率	3		

第2章 整数		1節 整数の性質 ・倍数と約数 ・素数と素因数分解 ・最大公約数と最小公倍数	2 2 2	・倍数と約数の意味を理解し、求めることができる。 ・素数の意味を理解し、素因数分解の計算ができる。 ・最大公約数と最小公倍数の意味を理解し、	後期期末試験
	第3章 図形の性質	1	1節 三角形の性質 ・三角形と線分の比 ・三角形の外心・内心・重心	6 4	
2		2節 円の性質 ・円周角 ・円と四角形 ・円と接線	2 2 2	・円周角の定理を用いて、いろいろな角の大きさを求めることができる。 ・円に内接する四角形の性質を用いて、いろいろな角の大きさを求めることができる。 ・接線と弦のつくる角を用いて、いろいろな角の大きさを求めることができる。	
3		・方べきの定理	2	・方べきの定理を用いて、いろいろな線分の長さを求めることができる。	
※38週 × 2単位 = 76時間					